



読字原田 観

No. 805

2016/ 8/15

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒113-0033 東京都文京区  
本郷1-1-1807231室

日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8256  
岡山市東区3-8-30 514  
TEL:086(272)-3010  
郵便番号1100  
01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8911  
倉敷市遊島中央1-8-4  
(宮地方)  
TEL/FAX:086(445)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rzhong.biz/>  
メールアドレス  
rzhong86@hotmail.co.jp



## 日中友好協会岡山支部

### 2016年度総会を開催

2016年7月31日岡山市

福祉交流プラザ旭東で、2016年度支部総会が開かれました。

当日17人の参加でした。まず、国民救援会の小山さんから連帯のご挨拶を受け、続いて倉敷支部の犬飼さんから共同で11月に洛陽旅行を成功させようという、メッセージをいただきました。



林市議も参加いただきました。

議案の説明から、今年度の方針、予算案、新役員までとごおりなく承認されました。

2016年度の理事は、今岡寛、稲葉康子、宇野武夫、河井伸士、小林軍治、真田紀子、曾田和子、竹内和夫、竹内袈裟行の9人となりました。

10年にわたる南京での生活を体験として話してくださり、とても興味深いものでした。南京師範大学での中国語を学ぶ学生生活、また三江大学での日本語教師としての生活を同時に行うため、移動に必ずバスを使うこと。中国では日本と違い、誰も列をつくって並んだりしないことなどおもしろく話してくださいました。最後に、中国で学んだ太極拳を披露してくださいました。(真田)

## 曾田康載先生の「南京暮らし」の講演を聞いて

県議会議員 氏平三穂子

リタイア後の語学留学は、誰でも憧れる生き方だろう。しかし、曾田先生は中国語に興味を持ち、なぜか、先に中国で、自分の夢を実現(戦前、日本帝国主義が中国に対して行った侵略行為の償いをしてい)していた妻と一緒に暮らしているという話は興味津々だった。曾田夫妻の夫婦関係は常に妻が主導権を握っている様子が面白かった。



曾田さんと氏平さん(右の女性)

今の中国は社会主義が10%、90%が資本主義とも言われている。若者が大学で学ぶのも金儲けをして良い暮らしをしたいためだ。しかし、儒教の教育は浸透していて、教師は尊敬すべき老師であり、親の教えに従い、老人を敬う精神は徹底されている。

いま、日本でも道徳教育を進める政権の動きの中で、自民党の県議たちは論語教育を岡山県でもすべきだと主張する。個人の尊厳の上に国家や家族をもつて来ようとする動きは警戒すべきだ。太極拳の実技も見せてもらった。本格的な武道だ。リタイア後、自分の夢や好奇心を求めて行動できる曾田夫妻の生き方の根底に健康不安がないことを実感した。



太極拳の実技を披露する曾田さん

## 高齢者施設訪問と社会見学

### ― 帰国者介護に希望の光 ―

7月25日、中国・四国中国帰国者支援・交流センター(センター)主催の高齢者施設訪問と社会見学会が開催されました。前号では、天津甘栗などを製造・販売している岡三食品の工場見学について紹介しました。

なじみのある地域でサービスを受ける

この事業所は、介護が必要になったお年寄りの方が、なじみのある地域、住み慣れた自宅で生活をつづけながら、必要に応じて「通い」訪問「宿泊」に関するサービスを受けることができる施設です。

現在の利用者は29人で、8人が中国帰国者です。古民家を改装したもので、家庭的な雰囲気のある施設です。職員は、代表の本田夫妻をはじめ、よく気が付き明るい感じの人々です。(裏面につづく)



2016/07/25

# 高齢者施設訪問と社会見学

(一面からのつづき)

## 中国残留孤児二世の がんばり

この施設が中国帰国者を受け入れることができ、現在なんとかやっていけているのは、二つのことが考えられます。

一つは、本田代表を中心に職員のみならず日本人の利用者を、約2か月にわたって説得したことです。

本田代表は「生活習慣の違いや現在の中国に対する国民感情が悪化している中で、トラブルが発生するのではないかと不安があった」が「日本人の利用者に対して、中国帰国者の人々は、中国での生活、



立って話をしている女性が山中さん

日本に帰国してからの苦勞などについて話し、同じ人間ではないかと理解してもらった」と語りました。  
二つには、中国残留孤児二世の山中さんが介護福祉士・中国語通訳として働いていることです。

日本語が充分話せない帰国者にとって、中国語がわかり、帰国者の歴史や現状を理解できる山中さんの存在は、大きいものがあります。同時に、代表と山中さんの間に信頼関係があることが、手探り状態ではじめたことが、今日まで続いている最大の要因であると思えます。

## 欢迎光临!

—いらつしやいませ—

私たちが施設に入ると「欢迎光临」と書いた看板がかかげられていました。この字は日本人の利用者が書いてくれたそうです。交流の場は、20人の訪問者が加わり、フロアはいっぱいになりました。日本人の利用者から你好(ニイハオ)とあいさつがあり交流に入りました。

まず、テレビ画面の高原列車は行くに合わせて、歌いながら手に持ったハンケチを振り体を動かしました。つぎに「正を向いて歩こう」の歌に合わせて、画面の人をまねて身振り、手ぶりで体を動かし、参加者全員に一体感が生まれ、打ちとけました。

中国帰国者で施設を利用している高杉さんが二胡で沖縄民謡をひくと、日本人の利用者が手拍子をしながらかいきました。  
訪問者の一人である益田さんが、ハモニカとフルールの演奏をしました。北国の春「ふるさと」 里の秋など参加者になじみの深い曲だったので、みんなで口ずさみました。二人の演奏後に、日本人の利用者から「謝々」と中国語で礼の言葉がありました。  
一時間三十分足らずの交流でしたが、心あたたまる楽しいひとときを過ごしました。

今後、この施設が、日本人、中国帰国者が仲良く交流でき

る場として、ますます充実していくことを願っています。  
日中岡山支部としても、できるかぎりの協力をしていきたいと思っています。

最後に、今回このような素晴らしい企画をされ、私たちを案内してくださった、センター職員の中田さん、金山さんに感謝します。

次に見学・交流に参加した帰国者の感想文を紹介します。

7月25日、岡山県の施設見学・交流会に参加しました。まずは、岡三食品工場で栗の加工作業を見学しました。大自然の恵みに感謝しました。

私たちはこの美しい地球に生まれ、大地で育てた食材を食べて、元気に暮らしています。

次に「ころの里やまさき」へ見学に行きました。高齢者の日常生活ぶりを見て充実した介護サービス、システムに感心しました。人間として、国籍、出身を問わずに平等で同じ待遇を受けています。お年寄りを大切にしています。私たちもいずれ年を取って、介護が必要になる日が来るかもしれない。日常に通うところとして、食事、入浴、娯楽により豊かな老後を送りたいです。

守本信子

## 岡山市9条の会の総会と 学習・交流会

◎日時:8月20日(土)14:00~17:00

◎場所:林病院ひまわりホール

◎内容:

### ①記念講演

講師 岡山大学名誉教授  
小畑隆資

「アベ政治を許さない  
—立憲主義と市民の視点から—」

### ②1年間の活動報告

### ③各地域9条の会の活動交流

三軒・旭東九条の会

鹿田・大元九条の会

弁護士九条の会

### ④今後の取り組みについて

この間、広島帰国者センターが計画して、岡山県の帰国者たちは食品工場と「ころの里やまさき」の小規模多機能型居宅介護施設を見学しました。

この見学は、私の心にひびいた、私も60才以上なので、いまから老いたときのことを考えるいい機会になった。「ころの里やまさき」では、私の団地の8人の帰国者、80才、70才の人と、生活を自分でできない人が、カラオケ、ダンス、編み物をします。1週間に3回で毎回2時間です。それから、車で買い物と病院へ診察に行きます。

帰国者の老人たちは、これまでは全然老人介護所へ行かなかった。それは帰国者が日本にきた年齢は50才以上です。日本語が下手です。日本人と交流できないからです。この老人介護所は介護福祉士の中で一人が帰国者二世です。団地に住んでいました。老

人たちはこの人をよく知っていて言葉を交わしている。

この老人介護所の経営者は夫婦です。この夫婦と社員は老人たちに親切で、わからないとき、社長と社員はまじめに詳しく説明します。帰国者二世も中国語を通訳しています。老人たちは介護所で楽しいです。

私は日本語教室で、日本語を勉強した。先生たちは中国と友好的で優しいです。知識も豊富です。

長い時間、先生と生徒は付き合っ、友達になりました。私は日本語を継続して勉強したいと思えます。

益田桜子

次回の新聞発送作業は  
9月1日(木)午後1時半から  
民主会館2階で行います。  
前回お手伝いくださった方です。

林 和  
小曾 内  
竹 内  
竹 内  
坪 井